第106回 実は隣のスゴイ人

株式会社 Cross
常務取締役
中村 浩輔さん
就労継続支援Ｂ型事業所「笑流（えある）」
共同生活援助「笑住（えす）」

曽於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、豊永雄二さんにご紹介いただいたこの方は「コミュニケーション能力のかたまりで、誰とでも分け隔てなく接し、先を見据えて行動するスゴイ人」とのこと。

今回は、大隅町にある株式会社Crossの常務取締役を務める中村浩輔さんにお話を伺いました。同社は就労継続支援Ｂ型事業所『笑流』とグループホーム『笑住』を運営しています。

末吉町出身の中村さんは、岩川高校を卒業後、鹿児島医療技術専門学校へ進学し、理学療法士の資格を取得。市内外の病院で約18年間、理学療法士として勤務しました。ケアマネジャーの資格を取得し、以前からデイサービスを始めたいと考えていました。高校時代の友人と参加した福祉に関する勉強会で現在の会社の代表と出会い、相談したことをきっかけに就労支援のニーズを知りました。

「就労支援の方が地域に必要とされているんじゃないかと思いました」

令和4年に高校時代の友人を含む3人で事業を立ち上げ、就労継続支援Ｂ型事業所『笑流』とグループホーム『笑住』を開所しました。『笑流』は友人の父が所有していた家を改装した施設で、自然に囲まれた静かな環境が特徴です。グループホーム『笑住』では、利用者が掃除や洗濯などにも取り組み、日常生活を知ることで支援にも生かされています。

中村さんは企業などから仕事を受注するための営業や利用者の就職先探し、施設の責任者として職員や利用者の相談にも対応しています。

「利用者がやりたいことを優先して、その人らしく取り組めるようにしています」

利用者が製作した雑貨・竹灯籠

利用者は内職をしたり雑貨や竹灯籠の製作などに取り組み、製作した商品は市内の郵便局や北マーケットなどで販売しています。また絵を描くことが得意な利用者が、横浜市のTシャツ製作会社と繋がるなど、得意なことが仕事につながった例もあります。

「大切にしていることは話を聞くことです。困りごとや悩みをしっかり聞くことで、精神的に落ち着きます」

利用を始めた頃は不安から表情が硬かった利用者も、活動や交流を重ねる中で、少しずつ笑顔を見せるようになります。できなかった作業ができるようになったり『ここに来て良かった』と言ってもらえることが、やりがいにつながっています。

理学療法士としての経験も現在の仕事に生かされています。

「理学療法士のときは身体面を中心に見ていましたが、今は一人ひとりの性格や生活背景も意識して関わっています。それに加えて身体面のアドバイスができるのは自分の強みだと思います」

一方で利用者の仕事や就職先を見つけることに難しさを感じることもあります。それでも一人ひとりと向き合いながら、日々楽しく仕事に取り組んでいます。

「今後は地域の課題を補えるような取り組みを増やし、地域に貢献していきたいです。紫山芋を作ってくれる方を地域で募集しているので、そこから新たな仕事につなげていきたいです」

と今後の目標を話してくれました。